

柔軟な発想が必要と言われても、なかなか従来の考え方の枠組みを抜け出せないのが人間。いっその他の動物の知恵を借りてみてはどうだろう。動物の描かれたカードを使い、その特徴をもとにアイデアを生み出そうとする「アニマル・シンキング」という発想法が関心を集めつつある。めまぐるしく経営環境が変わる時代、新たな事業や製品のヒントを求め、企業などが導入に動いている。

「アニマル・シンキング」で使う動物の行動の例

動物	行動や特徴
シマウマ	矛盾を受け入れる
トカゲ	不可欠なものを手放す
コウモリ	従来の考え方をひっくり返す
キリン	一部分の大きさを変える
チンパンジー	マネをして少し変化をつける
クジャク	見た目・色などを変える
ラバ	予想外の組み合わせを作る
アリ	役割分担で周りを生かす
チョウ	成長とともに変化する
ハチ	周りを生かす
クラゲ	材料・素材を考える



アニマル・シンキングを導入しようと講習会には企業や大学の関係者が集まった（11月、東京都中野区）

新しい発想で学校経営に取り組んでもらいたい」と期待を込める。研修会後、全国10校以上の学校が来年度以降の導入検討を始めたという。

企業や学校で「斬新なアイデア」が必要とされるが、会議では面白い提案が出にくい。こんな現実が「動物の発想法」への関心を国内で広げているようだ。11月中旬に都内で開かれた講習会には企業や大学から8人の男女が集まった。

独化学大手BASFの品開発案として提案されたこととなった。日本法人、BASFジャパン（東京・港）の六本木ヒルズオフィス。今年8月、20歳代から50歳代までの社員23人が会議室に集まりアニマル・シンキングを導入したミーティングを開いた。テーマは自動車向け製品の開発・販売方針だ。

まず引かれたカードは「ラバ」。馬とロバの混血であるラバは、この発想法では「予想外の組み合わせを作る」を意味する。次のカードは「アリ」。女王アリや働きアリなどの行動から「役割分担で周りを生かす」意味となっている。社員はカードを見ては「組み合わせ」や「役割分担」などについて、思いついたことを次々と口にする。

「アニマル・シンキングをはじめ、柔軟な発想法「クリエイティブシンキング」を採用する企業は多い。その現状などを、産業能率大・学総合研究所の大神賢一郎教授に聞いた。

「クリエイティブシンキングとはどんなものか。」「効率的にアイデアを生み出すための手法。会議などでテーマについて思いつくまま自由に発言する『ブレインストーミング』などが代表例に挙げられる。情

学校経営にもアニマル（ば市）がこの夏2回開いた研修会。校長やベテラン教師など計260人が参加した4泊5日の日程の初日に、アニマル・シンキングの実践練習が採られた。

同センター研修企画課の鈴木実氏は「社会が中学校や高校に求めるニーズは日々変わっている。

「カードに使って今までのないフォークのアイデアを出し合います。講師が声をかける。」「材料・素材を考える」を意味するクラゲのカードを引いた女性は「それ自体も食べられる素材にしたフォークを作ってみては」と提案。次々とアイデアが続いた。

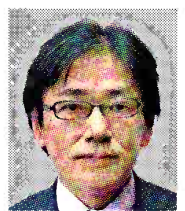
参加した会社員の女性は「カードに言われてる感じなので気ままに思いついたことが言える」と好感触を示した。

講習会を主催する人材開発コンサルティング会社イマージュエンス（東京・新宿）の桑畑英紀社長は「動物のイメージを使った分かりやすさが強み」と話す。昨年1月の開始から講習会に1000人弱が参加した。

最近どうも元気がない日本。「今までのやり方ではダメ」と人々は新しい考え方を探している。動物たちはどう見ているだろう。（武田健太郎）

新発想、動物の力借りて

- 「ラバ」→組み合わせ予想外
- 「アリ」→役割分担しっかり
- 「クラゲ」→材料・素材を再考



産能大総合研究所 大神賢一郎教授

「技術や生産性の優位性だけでは国際競争に勝てないと気付いた日本の企業が、ニーズを早くつかむ『考えられる社員』の育成に動き出したからだろう。」「導入の際に注意すべき点は、新しいアイデアを組織全体が受け入れる環境が必要になる。ある部門が斬新な製品を考えても、他部門が反対することはよくある。一方で、1つの発想法に頼ってしまうのも問題だ」

クリエイティブシンキング「考える社員」をつくる

主な「クリエイティブシンキング」の手法

名称	特徴
ブレインストーミング	思いついた意見を自由に言い合う代表例
アニマル・シンキング	動物の特性を発想のヒントにして議論
チェックリスト法	質問項目に答えながらアイデアを膨らます
希望点列挙法	こうなったらほしいという願望をもとに発想

「技術や生産性の優位性だけでは国際競争に勝てないと気付いた日本の企業が、ニーズを早くつかむ『考えられる社員』の育成に動き出したからだろう。」「導入の際に注意すべき点は、新しいアイデアを組織全体が受け入れる環境が必要になる。ある部門が斬新な製品を考えても、他部門が反対することはよくある。一方で、1つの発想法に頼ってしまうのも問題だ」

「新しいアイデアを組織全体が受け入れる環境が必要になる。ある部門が斬新な製品を考えても、他部門が反対することはよくある。一方で、1つの発想法に頼ってしまうのも問題だ」